野々池貯水池の利活用策

市民にとってより良い方策を

総合的に検討していく

問　水源転換後の野々池貯水池の利活用については、水道事業の経営改善をもたらす方策が望ましいと考えるが、市の考えを聞く。

答　野々池貯水池は、明石川河川水の水源転換に伴い、水道の原水貯水池としての機能が廃止となる。水道局が資産として保有し続ける限り、多額の維持管理費用が必要となるため、今後の取り扱いは大きな課題である。解決策としては、売却が有効な手段の一つであるが、敷地面積が約22・3ヘクタールと広大であり、周辺地盤から8メートル以上掘り下げて築造されていることや市街化調整区域内の土地利用は一定の制限があることから、現況のままの売却は困難が伴うと想定している。

野々池貯水池の今後は

野々池貯水池の今後の利活用については、水道局だけでなく、市全体として、市民にとってより良い方策について総合的に検討していきたい。

有機食材を活用した学校給食

試行実施を踏まえた

今後の取り組みは

問　令和6年度の新規事業である学校給食における地産地消の推進と有機食材の活用について聞く。

答　有機野菜は、土壌をはじめとする自然環境に配慮しており、学校給食で使用することは、食育の観点で意義がある。3年6月議会において、幼小中学校給食の無添加を目指す請願が採択されたことを踏まえ、これまでに2回、中学校給食でニンジン等を試行的に使用して検証を行った。その結果、価格や量の確保、調理時間などの課題を認識したため、6年度は、早期に有機野菜を手配し、有機野菜を材料としたコロッケなどの加工食品の開発を食品メーカーに依頼するなど、有機食材の確保に努めていく。

また、（仮称）有機給食の日を設け有機食材の使用をアピールするとともに、有機食材を食べることをきっかけに自然環境にやさしい農業について児童生徒に考えてもらうなど、学校現場における食育に活用していきたい。

利用ニーズの高い放課後等デイサービス

負担額軽減は

問　放課後等デイサービスの質の向上と利用者負担額の軽減について本市の考えを聞く。

答　放課後等デイサービスは、障害のある児童生徒へ生活能力向上に必要な訓練等の支援を行うもので、利用者数や事業所数が急増しており、利用ニーズの高いサービスである。一方、事業所のサービスの質の向上が全国的な課題となっており、本市は令和5年度から事業所の巡回支援を実施しており、6年度からは、効果的な療育プログラムを実施できるよう研修等の支援も行う。

利用者負担額は、児童福祉法で保護者の所得により上限月額が定められているが、一律に全額負担ではなく、利用日数に応じた負担額である。負担額の軽減や児童生徒の特性に応じた支援は重要だが、制度の持続可能性の問題など慎重な検討が必要なことから国や他市の動向を注視していく。

朝霧駅周辺の駐停車問題

安全性や利便性を検証し

新たな停車スペースを検討

問　朝霧駅周辺道路の駐停車問題を解決するため、一般車用ロータリーの停車台数を増やし、市民に安全と利便性を提供しないか。

答　朝霧駅前広場は、近年の人口増加や交通環境の変化に伴い、さまざまな交通課題が生じていたため、安全性の向上を目的に平成28年度にリニューアルした。

一般車用ロータリーの中央スペースは、花壇やイベントスペースとしての活用などを地域住民と意見交換してきたが、実施には至っていない。また、駐車場としての活用も交通安全上の問題や採算が取れないことなどから採用には至らなかった。

一方、舞子駅南側ロータリーの中央スペースでは停車場を設けていることから、同事例を調査し、警察等と協議の上、安全性や利便性の検証を行い、新たな停車スペースの可能性を検討していく。

朝霧駅前ロータリー

明石の未来を考える

子どもや若者の声を聴き

市政に反映する仕組みは

問　こども基本法を踏まえ、子どもや若者の声を聴き、その考えを施策等に反映していく仕組みが作れないか。

答　本市は多様な市民の声を聴き、対話を通して共にまちづくりを進めるため、昨年5月からタウンミーティングを実施している。8月に小中学生が対象のこども会議や高校生世代から20代までが対象の若者会議を開催した。若者会議では私たちが思うこれからの明石のまちをテーマにまちの未来に向けた数多くの提案があった。紙の再資源化プロジェクトで設置したリサイクルBOXもその中の一つだ。

子どもや若者も明石の未来についてしっかりと意見を持っているため、今後、こども会議や若者会議等を定期的に開催し、聴いた意見を市政の至るところに反映させていきたい。

兵庫県後期高齢者医療広域連合議会議員を選出

後期高齢者医療制度に基づき設置された兵庫県後期高齢者医療広域連合議会は、県内市町から1人ずつ選ばれた議員で構成されています。明石市では新たな選出議員として、副市長である永野潔氏を選出しました。

なお、任期は副市長職の任期である令和9年12月20日までです。

公平委員会委員

選任に同意

公平委員会委員の任期満了に伴い、藤井伊久雄氏を引き続き選任することに同意しました。

同氏は、弁護士として活躍され、地方独立行政法人明石市立市民病院監事等を務められています。平成24年から同委員に就任し、今回で4期目となります。

本市の公平委員会委員は3人で任期は4年です。

固定資産評価審査委員会委員

選任に同意

固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い、大西淳二氏を引き続き選任することに同意しました。

本市の固定資産評価審査委員会委員は3人で任期は3年です。

請願

▽採択された請願△

○大久保浄化センター内のテニスコートの閉鎖に反対する請願

意見書を提出

意見書1件を可決し、政府・関係機関に送付しました。以下はその要旨です。

○多様な人材の地方議会への参画促進を求める意見書

国民の幅広い層からの政治参加や地方議会における多様な人材確保の観点から、次の事項について早急に実現するよう強く要望する。

1　地方議会の役割等が明確化された地方自治法の改正を踏まえた主権者教育を一層推進すること。

2　立候補に伴う休暇制度や議員活動のための休職、任期満了後の復職など、会社員が立候補しやすい環境の整備と厚生年金へ地方議会議員が加入できるための法整備を図ること。

3　政治分野における男女共同参画の推進を図るため、議員活動と出産・育児、介護等の両立やハラスメント防止のための取り組みを支援すること。

議員よもやま話

令和6年は、予期せぬ大災害でスタートしましたが、4月の新生活が始まり、あっという間に5月を迎える時期になります。〝光陰矢の如し〟という言葉を実感すると同時に、新しい年度への抱負を新たにかみしめる良い機会です。学生は新しい環境に少し慣れ、新しい友人との関係も深まり始めます。一方で、社会人は新しい職務に適応し、新たな目標に向けての一歩を着実に踏み出しています。これからの5月、私たちは新生活の初期の段階を経て、より大きな夢に向かって進むための目標を固めることができます。この時期に立てる目標は、自己実現への道のりを照らす灯台のようなもので、それに向かって日々努力することが重要です。〝光陰矢の如し〟の言葉を胸に、時間を大切にし、自分自身の成長と夢の実現に向けて、前向きに取り組んでいきましょう。